

AI寺子屋 特典②

問い合わせメールの返信を、下書きとして自動で用意しておくエージェント

※先に「はじめに・共通の準備」(TOKUTEN_00_kyoutsuu.pdf)を済ませてから、このページに進んでください。困った時は「困った時」(TOKUTEN_05_komatta.pdf)をご覧ください。

1. 何が届くか

Gmailの中から、あなたが決めたラベル（初期設定は「問い合わせ」）が付いていて、まだ返信していない未読メールを見つけ、Geminiが丁寧な返信文を考えて「下書き」として保存します。**送信はしません**。必ずあなた自身が内容を確認してから送信する仕組みです。

実際にGoogleアカウント上で組み立てて動かし、作られた下書きの例です（問い合わせ本文「見積もりの相談」に対する下書き。実際の文面は毎回変わります）。

お問い合わせいただきありがとうございます。この度は弊社サービスにご興味をお持ちいただき、重ねてお礼申し上げます。（このあとに、費用や導入期間について「担当者が確認のうえ改めて連絡する」旨の本文が続きます）

AI寺子屋 事務局

（このあとに、あなたが設定した署名が自動で付きます）

2. 貼るコード

docs/tokuten/gas/reply_draft_agent.gs の中身をまるごとコピーして、共通編「4. コードを貼る」の手順で貼り付けてください。画面の見た目は、共通編で見たものと同じです（中身のコードが変わるだけです）。

3. この台本だけのスクリプトプロパティと、事前に作るラベル

共通編で入れた GEMINI_API_KEY に加えて、以下を追加してください。

プロパティ名	入れる値	省略できるか
SIGNATURE	返信の末尾に付ける署名（会社名・氏名・電話番号など。複数行OK）	できません（必須）
INQUIRY_LABEL	問い合わせメールに付けているラベル名	できます（省略時は「問い合わせ」）
PROCESSED_LABEL	処理済みの目印に使うラベル名	できます（省略時は「返信下書き済み」）

事前にやっておくこと（ラベルの作り方）： INQUIRY_LABEL に使う名前（例: 問い合わせ）と、PROCESSED_LABEL に使う名前（例: 返信下書き済み）の2つのラベルを、あらかじめGmailで作っておいてください。

1. Gmailの左メニューの「もっと見る」をクリックして開く
2. 一番下に出てくる「新しいラベルを作成」をクリック
3. ラベル名（例: 問い合わせ）を入力して「作成」を押す
4. 同じ手順をもう一度繰り返し、処理済み用のラベル（例: 返信下書き済み）も作っておく

問い合わせメールには、自分でこのラベルを付けるか、Gmailのフィルタで自動的に付くようにしておきます。

実際に入れ終えた画面です（ PROCESSED_LABEL は省略して既定値のまま使っています）。



ID は、Apps Script プロジェクトの一意の識別子です。



スクリプト ID 1K_kzm9f0b_pREHT7AHYVJWGUaHEz3lt1aTyPPAIzcvmrnGJrAuKP_7uB
[📄 コピー](#)



Google Cloud Platform (GCP) プロジェクト

Apps Script プロジェクトでは、Google Cloud Platform を使用して承認、高度なサービス、その他の詳細が管理されます。詳しくは、[Google Cloud Platform](#) をご覧ください。

GCP デフォルト

[プロジェクトを変更](#)

スクリプト プロパティ

スクリプト プロパティを使用すると、特定のオブジェクト インスタンスに対して簡単にカスタム プロパティを定義および公開できます。詳しくは、[スクリプト プロパティに関するドキュメント](#)をご覧ください。

プロパティ

GEMINI_API_KEY

値

プロパティ

INQUIRY_LABEL

値

問い合わせ

プロパティ

SIGNATURE

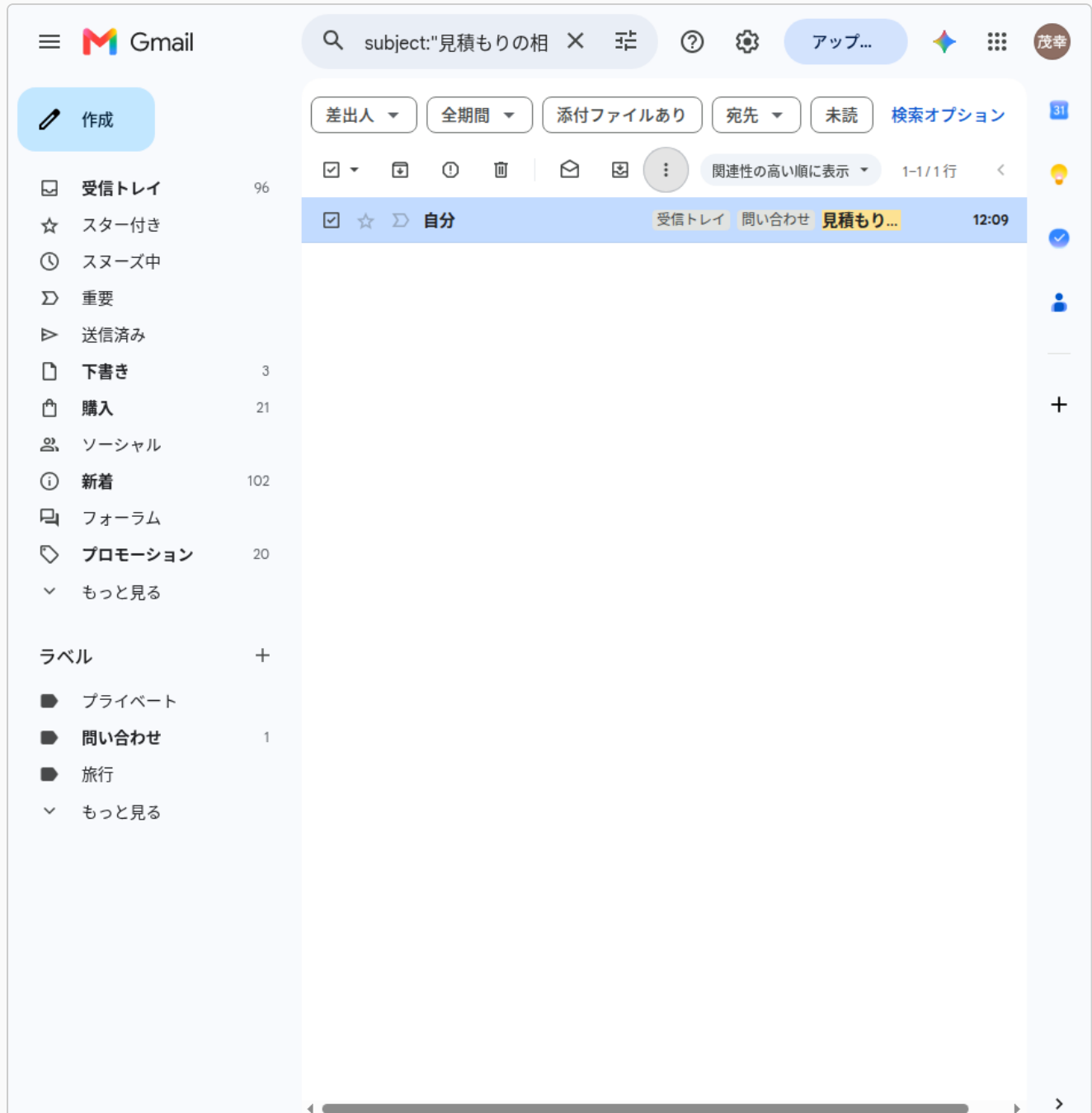
値

-----AI寺子屋 事務局

[スクリプト プロパティを編集](#)

4. 動作確認のやり方

1. 試しに、自分宛にテストメールを1通送るなどして、未読メールを1通用意しておく
2. そのメールに、`INQUIRY_LABEL` に使う名前（例: 問い合わせ）のラベルを付ける（実際に付け終えた状態はこの画面のとおりです）



3. 共通編「6.」の手順どおり、関数選択を `run` にして実行し、権限を許可する（お試し実行を兼ねる）
4. 対象のメールに返信の下書きができていないか、Gmailの「下書き」を確認する
5. 確認できたら、共通編「7.」の手順どおり、関数選択を `setupTrigger` に変えて実行し、自動実行を予約する

これで完了です。あとは5分ごとに自動でチェックして、対象のメールが見つかるたびに下書きを作ってくれます。

5. 届かない時の見方

- **下書きが増えていかない:** ラベル名が1文字も違わず設定されているか（ INQUIRY_LABEL の名前とGmail側のラベル名が一致しているか）、対象のメールが実際に「未読」のままになっているかを確認してください。ラベルが存在しないだけではエラーは出ず、単に「対象なし」として静かに終わる仕様です
- **エラーの内容がメールで届いた場合:** 「【問い合わせ返信下書きエージェント】 検索でエラーが発生しました」または「下書き作成でエラーが発生しました」という件名で、エラー内容がそのまま本文に書かれています。多くは SIGNATURE の未設定が原因です
- **同じメールに何度も下書きが作られないか心配な場合:** 下書きを作り終えたスレッドには自動で処理済みラベルが付き、次回以降は対象から外れます。二重に作られることはありません